



網走市立図書館 後編

前編で網走の豊富なコンテンツに触れました。

ところで網走刑務所と網走監獄の違いはご存知でしょうか？

網走刑務所は現在も刑務所として使われています。服役していた伊藤一が書いた小説『網走番外地』が映画化されました。

通称「五寸釘寅吉」こと、西川寅吉という囚人が網走だけでなく空知の月形刑務所にも服役していました。秋田刑務所から脱獄する際、巡査に見つかり、備えていた五寸釘の板を踏んで足に刺さったまま 12km も逃亡したそうです。寅吉の刑務所内での生活や生涯について綴られた『脱獄暦六回の記録保持者 五寸釘寅吉の生涯』網走の郷土史家・山谷一郎著（網走監獄保存財団発行）を是非ご一読いただきたいです。

網走監獄は実際に刑務所で使用されていた施設です。現在は「博物館 網走監獄」という名称です。監獄食について公式 HP によると「麦飯（麦 3：白米 7）、焼き魚（さんま or ホッケ）、小皿、中皿、みそ汁。現在の網走刑務所の昼食として出された食事メニューを再現したものです。本来は、みそ汁ではなく番茶が出されています。」実際に食事することができます。

網走図書館では、郷土資料の保存方法として特注の箱（一般的な本の外箱に類似したものでサイズも数種用意）を使って整理・保存し、図書館員は「箱資料」と名付けています。背には標題と請求記号を付け、書誌データには内容細目で同封された資料の詳細を記します。例えば、「網走・オホーツクの歌」という箱には楽譜や CD、パンフレット、新聞記事などが収められています。その主題とした資料を新たに収集した場合は、その箱に追加してデータも追記していきます。複本による所蔵も多いことから貸出し可の資料が多いのはありがたいです。

郷土資料には高倉健コーナーを常設。伝記、AV 資料、作品の原作など充実しています。北海道の映画やテレビ番組で網走はとてもよく登場するので、その資料なども保存しています。ウィキペディアで「網走市」を検索するとわかります。

流氷に関する資料も大変充実しています。毎年実施する「あばしりオホーツク流氷まつり」では、歴代流氷パタラの衣装などを展示します。パタラとは、網走市と縁が深いロシア・サ

ハリン州の少数民族のウィルタの言葉で「お嬢さん」を意味しています。毎年、観光PRに協力してもらった「流水パタラ」をまつりの実行委員会が選考しています。

図書館の作りとしては、複合施設に入っていること、郷土資料の2階に上がると1階全体を見渡すことができます。この作りは石狩や岩見沢など道内各地で見ることができます。きっと本州でもよく見かけるかと思います。2階へ上がる階段の1つに、小さな螺旋階段があり印象的です。

前編で書きましたが網走市の面積は470.9 km²。人口は31000人ほどですが、道内の他の市と異なり、「分庫」が10箇所も設置されているのが特徴です。「分庫」は分室よりも規模が小さい図書施設です。コミュニティーセンター、児童センターはもちろん郵便局にも入っています。利用時間は各施設によって異なるので訪問する際には必ず確認してください。毎週土曜日13:00~15:00のみ開館している施設もあります。

最後に「鉄分」の好きな方(鉄道ファン)にお勧めなのが呼人(よびと)という地区です。網走から1つ目の無人駅です。こちらには「旧国鉄保養所鉄ちゃんと鉄子の宿」という民宿があります。

昨年8月、宿の敷地内に50年近く道南で働いたディーゼル機関車をトラックで五稜郭駅から呼人まで600キロ運び、実際に運転開始したのです。車の普通運転免許を持っていたら運転させてくれます。あいにく私は運転できません。

こちらのニュースはYouTubeで上がっているのでご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=LnhWCpVOokQ>

2025年5月訪問

加藤 重男